

アラブ、アフリカ、地中海世界の交差点 チュニジア

Tunisia

ここには、
北アフリカの
「素敵」の
すべてがある。

<http://gotunisia.jp/>

©OFFICE NATIONAL DU TOURISME TUNISIEN & EMBASSY OF TUNISIA IN JAPAN



チュニジア国家観光局

1, Ave. Mohamed V, Tunis
Tel:216-71-341-077 Fax:216-71-341-355
URL:www.tunisietourisme.com.tn

チュニジア大使館観光部

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-6-6
Tel:03-3511-6622 Fax:03-3511-6600
E-mail:mailbox@tunisia.or.jp URL:www.tunisia.or.jp



Tunisia INSPIRING

2. チュニジアの洗練が詰まった地中海沿いの街々

白い壁に映える「チュニジャン・ブルー」の門の街並みが最高に美しいシディ・ブ・サイドほか地中海沿岸の街にはチュニジアの洗練が詰まっている。ヨーロッパの人々がバカンスに訪れるビーチリゾートであるスースやハマメット、ガマルタなどモダンなホテルや洒落たショップが集まるエリアも多く、一味違った楽しみ方ができる。



上：ヨーロッパナイズされたお洒落なインテリアショップも多い／下：紺碧の地中海を見渡せるシディ・ブ・サイドのカフェ。

3. 悠久の時間が育んできた砂漠と遺跡の壮大なロマン

どこまでも広がる砂と岩の大地と照りつける太陽、ナツメヤシのオアシスが非日常の世界へと連れて行ってくれる、世界最大級の砂漠サハラ。そして紀元前9世紀のフェニキア人の入植に始まる長い覇権争いが残した、世界遺産が目白押しの遺跡群。この地で自然と人間が織り成してきた壮大な歴史のロマンを感じずにいられない。



上：素晴らしい保存状態を誇る都市遺跡、ドゥッガのキャピトル(神殿)／下：羊飼いが荒野を歩く、サハラ砂漠の夕暮れ。

Tunisia

ここには、北アフリカの「素敵」のすべてがある。

エキゾチックなメディナ(旧市街)の路地裏を歩き、地中海リゾートのシーサイドカフェでミントティーを飲む。世界遺産がいっぱいの遺跡をめぐり、壮大な歴史のロマンを感じる。ラクダに揺られ、どこまでも続く砂漠に行く。そんな「素敵」がぜんぶ体験できてしまうのは、地中海とアラブ世界、アフリカの文化が出会う国チュニジアだからこそ。

チュニジアの街は猫天国。メディナの路地裏に隠れた人気者を探してみよう。



1. エキゾチックで美しい魅惑溢れるアラブ文化の香り

7世紀半ばから約800年に及んだアラブ支配の中で培われた文化はエキゾチックな魅力がいっぱい。チュニスやスースの迷宮のようなメディナ(旧市街)、荘厳なイスラム美術を堪能できるクロアンのグラン・モスク、独特の色遣いと柄が美しい絨毯や器などのアラビアン雑貨まで、奥深い歴史の香りを心ゆくまで堪能できる。



上：北アフリカ最古の都市クロアンのシディ・サハブ聖廟／下：伝統的な衣装に身を包んだ、由緒あるレストランのスタッフたち。

DATA of TUNISIA

- 正式名称：チュニジア共和国
- 国旗：
- 面積：162,155 km² (日本の国土の約2/5)
- 人口：10,673,800人 (2011年7月)
- 首都：チュニス
- 言語：アラビア語(公用語)、フランス語(広く普及)、英語およびイタリア語(一部)
- 宗教：イスラム教(スンニ派、多数)、キリスト教およびユダヤ教の小集団もある
- 通貨単位：チュニジャン・ディナール

Keyword 3: Mosque

北アフリカ最古 荘厳なモスクで触れる イスラムの美。

古都ケロアンにある現存する最古のモスク「グラン・モスク」は紀元後670年ごろに建てられ、現在のものは9世紀に再建されたもの。ローマ・ビザンチンの遺跡から流用した列柱が並ぶ荘厳な回廊ほか、神聖な雰囲気に溢れている。



同地の伝統工芸である絨毯が敷き詰められたモスク内部。

Keyword 2: Sweet

甘くてやみつきになる チュニジアは スイーツ天国だった。

街を歩けば、スイーツに当たる。辛い調味料を好むチュニジアの国民は実は甘いお菓子が大好き。屋台で買える軽くて素朴なドーナッツなどの揚げ菓子から、洒落た専門店に並ぶデーツ、アーモンドやピスタチオ、松の実などを使った綺麗な飾り付けのお菓子まで、バリエーション豊かで目にも楽しい。



色とりどりのチュニジア・スイーツは地元民にも観光客にも人気。

旅のスパイス、いっぱいあります。
歩いて、買って、食べて、体験。
ワクワク三味のチュニジアの旅。

思いがけない 素敵に出会える メディナ(旧市街)に 迷い込む。

Keyword 1: Medina

メディナとは中世イスラム都市の旧市街のこと。世界遺産にも認定されているチュニスとスースのメディナを始め、複雑に入り組んだ迷宮のような狭い道の町並みは、何に出会えるかわからないミステリアスな魅力がいっぱい。土産物、衣類や雑貨などの商店やカフェ、屋台が立ち並び、地元の人々と観光客が入り乱れて賑わうスーク(市場)を歩き周り、店のおじさんと交渉しながら買い物をするのもよし、ハمام(浴場)や理髪店などもある路地裏で、地元の人々の昔ながらの生活をかい間見るのもよし。何度も迷い込みたくなる魅惑の街路だ。



城壁で囲まれたメディナの中は、混沌とした迷路のようであり、やはりそこには人々の生活がある。活気ある物売りの声飛び交う商業エリアから、子どもたちが駆けまわる生活居住区までくまなく歩いてみれば、思いがけず印象的な風景と出会うかも知れない。



Keyword 4: General Merchandise 買い物ゴコロを 刺激するかわいい チュニジア雑貨たち。

独特のカラフルなパターンが素敵な絨毯や器などの伝統工芸品、手作りのかごなどの素朴な日用品、小さなアクセサリーや愛嬌あるオブジェ、仏領時代の香りを漂わせるヴィンテージ雑貨。ジャンクながらもくたから貴重な工芸品まであらゆるものが手に入るスークの雑貨店・土産物店をめぐって、お気に入りの一品を探してみよう。自分だけの掘り出し物を見つけたら、お店の人に敬意を払い、マナーを守って値引交渉してみるのもいい。買い物の楽しみが倍増するはず。



伝統を守り続ける工芸品もあれば、モダンなアレンジを施した都会的な雑貨もある。それぞれの個性あふれる品揃えの店の店先をあれこれと目移りしながら歩くだけでも充分楽しめる。ケロアンの絨毯、ナプールの器など、その生産地として知られる町では、生産現場を見学できるところもある。作り手の顔が見えれば、買い物もさらに味わいが増す。



Keyword 7: Ruins

古代都市の栄華に思いを馳せる 世界遺産だらけの遺跡めぐり。

街や自然だけでなく、夢やロマンに満ちた時間の旅を体験したい人は、世界遺産にも指定されているカルタゴ、ドゥッガ、エル・ジェムほかの遺跡群を見逃す手はない。フェニキア人、ローマ人ほかこの地で覇権を握り、栄華を誇った古代の人々のドラマが目の前に迫り来る、特別な体験が待っている。



左) エル・ジェムの円形闘技場

ローマ帝国の支配を受けていた3世紀にゴルディアヌス3世により建設された。本国ローマのコロッセオよりも保存状態が良いとされる、第一級の遺跡。現在も数万人を収容するフェスティバル会場としても機能している。

上) ドゥッガ遺跡

アフリカのローマ遺跡の中でも規模、保存状態ともに最高クラスとされる。標高600mの丘の上に建設された広大な都市遺跡。劇場、神殿、浴場、下水システムまで紀元2~4世紀に繁栄を極めたローマ都市の面影が生々しく残る。



チュニジア南部の村マトマタは先住民ベルベル人が暮らしたユニークな穴居住宅で知られ、観光客に人気。プール付きの3つ星ホテル(写真)などのほか、穴居住宅をホテルとして利用しているところもある。

オリーブ畑が広がる肥沃な緑の平原から乾燥した土と石の大地まで、小さな国土の中でダイナミックに変化する自然環境が体感できるチュニジアの中でも、やはり広大なサハラ砂漠は何ものにも代えがたい神秘的な魅力に満ちあふれている。砂丘の北の入口ドゥーズでラクダの背に揺られ、回り一面を真っ赤に染める夕焼けを眺める。クサル・ギレンのテントホテルで幻想的な砂漠の夜を味わう。マトマタで砂漠の民ベルベル人のユニークな穴居住宅に出会う……ここでしか体験できない非日常の冒険は、旅をいつまでも忘れられないものにしてくれる。

果てしなく広がる サハラの大地で 一生忘れない、 感動の冒険旅行。

Keyword 8: Desert



サハラ観光の中心地であるドゥーズ周辺ではラクダに乗って砂丘探訪を楽しむことができるほか、12月から1月にかけてはサハラ・フェスティバルも開催される。南部オアシスの町トズールの西には映画『スターウォーズ』のロケ地があり、今も撮影セットの一部が残されていて現在もファンが多く訪れる人気スポットとなっている。



大きな魚を乗せたクスクスなどの煮込み料理、ブリックと呼ばれる半熟卵やバセリなどを入れた揚げクレープなど、スパイスやハーブを使ったヘルシーな伝統料理が楽しめる。カフェではナッツを浮かべたミントティーを楽しむのがベスト。

オリーブオイルと スパイスが決め手 南地中海料理の 魅惑の味。

Keyword 5: Food

地中海に面し、ヨーロッパとアラブ、アフリカの影響がミックスされた料理文化を持つチュニジアでは、海産物、羊肉、スパイス、トマトや豆類などの豊富な食材を駆使した食事が堪能できる。世界有数の生産量を誇るフレッシュなオリーブオイルと「ハリッサ」と呼ばれる赤唐辛子ペースの調味料で食べる料理は味わい深く、伝統料理を出す高級レストランから地元民に愛される食堂まで、食べ歩きには事欠かない。



チュニスの北東18km、チュニス湾を望むシディ・ブ・サイドの街では至る所からのびやかな地中海の水平線が目飛び込んでくる。



Keyword 6: Resort

どこまでも 青い海と白い壁 美しい海辺の街で 味わう洗練の旅。



シーズンになるとヨーロッパ人たちが賑わうリゾートエリアにはモダンテイストのインテリアやコスメのショップ、雑貨店も多い。他では手に入らない、ちょっと気の利いたスペシャルなお土産を探すなら、こうしたショップを当たるのもいい。

「チュニジアで最も美しい街」と言われるシディ・ブ・サイドなど地中海沿いに点在する街では、チュニジアの洒落た一面を味わえる。フランス植民地時代の1920年代から開発されたハマメットや高級住宅地ラ・マルサ近郊のガマルタなどのシーサイド・リゾートでは海を望むレストランでモダンな地中海料理のディナーや隠れ家的なヴィラでの宿泊、洒落たセレクトショップでのショッピングなど、リラクセスして過ごしたい。